



多様な立場から 多様な意見を集める



～鹿屋市シティプロモーション戦略策定における市民ワークショップ～
市民がより本市に愛着と誇りを持ち、効果的に魅力を市内外へアピールするにはどうすればよいか意見を話し合う市民ワークショップを開催。9月から2回実施され、様々な立場の人が「鹿屋市の魅力」や「セールスポイント」について話し合いました。このワークショップで出された意見を参考に、令和7年3月に「鹿屋市シティプロモーション戦略」が策定されます。

「鹿屋市」がアイデンティティになるためには

関わり、行動することが 地域への愛着と誇りを育てる

見飽きたと思った景色が、経験を重ねると新しい景色に見えてくるように、故郷への想いも経験とともに変化してきます。
地域に関わる人々からインタビューを伺う中で、子どもの頃からの地域体験の積み重ねや仲間と何かしたいという気持ち、自分が楽しく地域で過ごしたいという想いの先に「地域づくり」があること。そして、そこに生まれるものが「シビックプライド」であることが分かりました。「シビックプライド」という概念は「今ここに居る友達を大切にしたい、楽しく幸

せに過ごしたい」という想いの延長線上にあります。
たとえ遠くに住んでいたとしても、地元に残り続けたいとしても、同じように鹿屋の事を想い、どこかで話題になったときにそつと味方になってくれるような人を増やすことこそが「シビックプライド」を醸成させる取り組みの本筋の目的です。
本市の取り組みをはじめ、地域での様々なイベント等を通じて故郷に想いを馳せ、自ら動き、楽しい場所を生み出す人が少しでも増えることを願います。

KANOYeah! CITY

特別CM公開

9月4日、日本新聞協会「第44回新聞広告賞」の大賞に「土用の『うしの日』問題」(令和5年7月掲載)が選出されました。地元出身のサンシャイン池崎さんを「クリエイティブディレクター池崎慧」として起用し、本市の魅力を全国に発信してきた「KANOYeah!CITY」プロジェクトは、今年で3期目。今年もユニークで驚きにあふれた動画が発信されます。

●公開 10月27日～

▶「KANOYeah!CITY」プロジェクト



高隈を元気に 人をつなげる取り組みを

～高隈地区コミュニティ協議会
・大隅湖レイクサイドフェスティバル実行委員会～

高隈地区コミュニティ協議会が管理している田んぼでは、毎年田植え前の5月に「どろんこバレーボール大会」、10月には高隈地区の保育園や小中学校の子どもたちと稲刈り体験を実施。また、10月13日に開催された「大隅湖レイクサイドフェスティバル2024」で披露されたレーザー花火は多くの人を魅了しました。地元の子どものための農業体験や大規模イベントで高隈の魅力をアピールし、関係人口を増やすための取り組みを続けています。



Interview

シビックプライドとは

シビックプライドとは、市民がまちや地域に対して持つ「愛着」や「誇り」のことですが、単なる郷土愛とは異なります。まちをより良い場所にするために、地域の歴史や文化、スポーツや芸術、産業など様々な要素に対し、自分事として関わることで生まれる「まちとの絆」とも言えます。ここで言う「シビックプライド」は、まちに住んでいる人だけではなく、働いたり、遊びに来たりする人たち、NPOや学校や企業も含まれます。

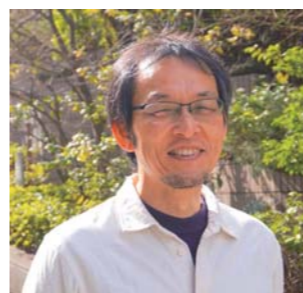
市民主体のプロモーションも重要

シビックプライドの視点で言うと、市民や企業、NPOなどにシティブロモーションの担い手になってもらうためのインナープロモーションが最も重

要ではないかと思っています。

活動的な市民が主体となつて地域外へ情報を発信することが、鹿屋市との関係人口や交流人口を増やし、地域外の人たちの関心が、さらに市民のシビックプライドの醸成に還元される。そんなプロモーションが理想だと考えています。

シビックプライドは、まちと市民との相互コミュニケーションをデザインすることによって醸成されるものだと考えています。つまり、自治体は市民に対して、まちのファンになり、活動してもらおうための情報やメッセージを届け、市民はアイデアや活動を通じて、まちと関わりを持つことが必要です。まちの活動人口が増えることによって、まちの価値が向上し、地域外の人たちを惹きつける。その結果、まちの持続可能性が高まると考えています。



株式会社 読売広告社
都市生活研究所
エグゼクティブリサーチ
ディレクター
みずもと ひろとし
水本 宏毅 さん

Data

福岡県大牟田市出身。シビックプライド研究や国内外の都市研究などを通じて、本市をはじめ自治体のプロモーション業務やセミナー、講演会等を実施している。